

## 石見銀山基金事業の選定結果について

### ○選定結果

認定事業に22団体、審査事業に8団体を選定委員会（委員長 井上定彦氏）により、公開プレゼンテーションを行った。選定された結果、28団体が採択された。

以下に資料を付けております。

- ・選定委員会委員名簿
- ・石見銀山基金事業のリスト
- ・石見銀山基金事業の審査表（結果表）
- ・選定基準

■ 石見銀山基金事業選定委員会委員名簿

区分	氏名	職業・所属団体・役職	備考
学識経験者	井上 定彦	島根県立大学 教授	
	渡邊 一正	NPO 市民文化財ネットワーク鳥取 理事長	
	佐々木 愛	島根大学 准教授	
石見銀山基金 募金委員会	榎 恒雄	大田商工会議所 専務理事	
行政	松本 岩雄	島根県教育庁文化財課 課長	
	蓮花 正晴	大田市 副市長	

■ 石見銀山基金事業 認定事業リスト

グループ	申請団体名	事業概要・効果
石見銀山を守る活動	馬路地区社会福祉協議会	6月初旬に銀の積出港である鞆ヶ浦と銀山街道鞆ヶ浦道の一部の草刈り・ゴミ拾いを行うことで環境美化が期待できる。
石見銀山を伝える活動	大田市内小・中学校	大田市内の22校の小・中学校と出雲養護学校大田分教室が石見銀山を訪れ体験活動を通して学習することで、郷土への誇りと愛着の醸成が期待できる
	島根県立出雲養護学校大田分教室	

## ■ 石見銀山基金事業 審査事業リスト

グループ	申請団体名	事業概要・効果
石見銀山を活かす活動	特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議	ツアーを組みボランティアによる竹刈り、ツアー参加者への石見銀山ガイドスを行うことで、景観向上、石見銀山のファンを増やす、森林整備事業の保管ができることが期待できる。
	B&G 琴ヶ浜海洋クラブ	「海から見た石見銀山」の充実を図るため、手造りのカヌーを制作することで、地元カヌー愛好者や指導者の育成、山村留学の生徒たちにも活用してもらい、鞆ヶ浦の活性化・まちづくりに期待できる。
石見銀山を究める活動	石見銀山の非文字史料を知る会	山口・近畿等の石州銀の類例調査を行い、データ化することで、石見銀山の調査研究が多角的に進められ、博物館での展覧会資料としての活用が期待できる。
	石見銀山の景観を考える会	文化的景観を保全するための学術的調査研究と保全方針に関しての提言を目的とした古木調査やシンポジウムを行うことで、樹木の保全対策や基礎調査としてのデータベースができ、ガイドの説明題材としても活用が期待できる。
石見銀山を伝える活動	石見銀山地質研究会	仙ノ山が属する大江高山火山群や島根全体の地質を知ること、産業再生や知的観光資源としての開発につながる。また、県内各地の地形や地層への関心を生み、後世に対しても自然環境を守る、育てる活動へつながることが期待できる。
	土江こども神楽団	ベトナムのホイアン市で開催されるホイアン日本祭にて、石見銀山に関する演目の神楽公演や世界遺産の視察、市民との意見交換会を行うことで、世界遺産の価値や世界共通の財産だという認識を深め、守り、活かす担い手となる人材づくりが期待できる。
	NPO 法人しまね歴史文化ネットワークもくもく	石見銀山の歴史、生活・文化、遺跡調査などに関する講座や現地踏査などのフィールドワーク、UI ターン促進につながる生活体験を組み合わせた3泊4日の講座を開催し、石見銀山の価値を学んだ人達が全国に石見銀山を発信してくれることが期待できる。
	特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議	世界遺産登録の前史が明文化されていなかったので『世界遺産 石見銀山を守った人々』(仮題)を出版することで、県民市民をはじめ観光客に知ってもらい、また、まちづくりに取り組む全国各地の方々への参考にしてもらえることが期待できる。

■ 石見銀山基金事業選定委員会 認定事業審査表

グループ	申請団体	認定すべき	認定すべきでない
石見銀山を守る活動	馬路地区 社会福祉協議会	○	
石見銀山を伝える活動	大田市内小・中学校	○	
	島根県立出雲養護学校 大田分教室	○	

■ 石見銀山基金事業選定委員会 審査事業審査表

グループ	申請団体	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員	合計	採否	備考
石見銀山を活かす活動	特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議	25	26	24	25	27	29	156	○	
	B&G 琴ヶ浜海洋クラブ									
石見銀山を究める活動	石見銀山の非文字 史料を知る会	24	25	21	23	23	19	135	○	
	石見銀山の景観を 考える会	22	22	26	23	21	24	138	○	

石見銀山を伝える活動	石見銀山地質研究会	21	21	22	18	21	18	121	○	
	土江こども神楽団	20	22	25	20	19	18	124	○	条件付き
	NPO 法人しまね 歴史文化ネットワーク もくもく	24	25	28	29	26	30	162	○	
	特定非営利活動法人 緑と水の連絡会議									

※総得点の6割（108点）以上の点数を獲得した団体から、獲得点数の高い順に審査事業に選定します。

## ■ 選定基準

選定委員会は、次の評価項目について審査し、その総得点の6割（108点）以上の点数を獲得した団体から順次、獲得点数の高い順に選定事業に選定します。

### （1）評価項目及び評価の着眼点

評価項目	評価の着眼点
①継承性	I 地域共通の課題の存在を認識し解決を図る取組か。 II 未来の世代に良好な地域環境や地域社会をもたらす取組か。 III 目的を共有する誰もが参加できる開かれた組織による取組か。 IV 石見銀山の新たな価値を見出し、地域への誇りを醸成する取り組みか。
②必要性	I 社会情勢に応じてニーズが高い事業か。 II 取り組む必要性が明確な事業か。
③公益性	広く地域、社会に貢献する活動か。
④発展可能性	I 今後、その成果の広がりを期待できる活動か。 II 次世代の育成につながる活動か。 III 今後、継続して取り組める体制、計画か。
⑤実現可能性	実施体制、事業計画、資金計画、スケジュールなど実現可能な活動か。
⑥費用の妥当性	活動の内容に見合った経費見積もりとなっているか。

### （2）評価方法

（1）の評価項目毎に別に基準を設けて、5段階評価で行います。

（最高点：6項目×5点＝30点）